



第68回日本老年医学会学術集会

ランチョンセミナー19

日時

2026年6月13日（土）
12：20～13：10

会場

第7会場

（神戸ポートピアホテル 本館B1F 偕楽1）

〒650-0046 兵庫県神戸市中央区港島中町6-10-1

診断後支援を基盤とした 高齢者認知症診療の実践

座長

秋下 雅弘 先生

東京都健康長寿医療センター 理事長

演者

和田 健二 先生

川崎医科大学 認知症学 主任教授

本学術集会のランチョンセミナーは当日整理券配布制です。
セミナー整理券は、セミナー開始時間に無効となります。
詳細は学術集会Webサイトをご確認ください。

<https://www.congre.co.jp/68jgs2026/index.html>

共催：第68回日本老年医学会学術集会／東和薬品株式会社

診断後支援を基盤とした 高齢者認知症診療の実践

和田 健二 先生

川崎医科大学 認知症学 主任教授

超高齢社会の進展に伴い、認知症診療は単なる早期発見や的確な医学的診断にとどまらず、診断後の生活をいかに支えるかという視点が不可欠となっている。すなわち、本人の価値観や生活背景、家族・介護環境を踏まえた「診断後支援」を基盤とした包括的医療への転換が求められている。とりわけ、マルチモビディティを有する高齢認知症患者では、ポリファーマシーが認知機能の悪化、ADL低下、転倒、せん妄、さらには介護負担の増大につながる可能性が高い。したがって、処方適正化は診断後支援の中核をなす重要課題であり、老年医学の専門性が最も発揮される領域の一つである。

本セミナーでは、ガイドラインの最新知見を踏まえ、高齢者医療特有の複雑性に対応する実践的アプローチを提示する。特に薬物療法の最適化の観点から、アドヒアランス向上と介護負担軽減の両立を目指す治療戦略を整理し、持続放出性リバスチグミン経皮吸収型製剤の臨床的意義と適切な活用法について概説する。

さらに、処方適正化が病院から在宅への円滑な移行を支え、地域包括ケアシステムにおける多職種連携を通じた「切れ目のない支援」へとどのように接続するのかを考察する。認知症とともに生きる人が診断後も住み慣れた地域で尊厳を保ちながら生活を継続できるよう、明日からの臨床実践に資する視座を共有したい。